

資生堂爭議勝利和解



大手化粧品メーカー・資生堂による解雇・雇い止め撤回を求めてたたかう全労連・全国一般神奈川地本アンフィニ分会の女性7人が、東京都労働委員会に救済を申し立てていた問題で25日、和解が成立しました。資生堂と派遣会社アンフィニが解雇・雇い止めを撤回。6年8カ月にわたるたたかいの全面的な勝利解決です。

↓関連⑤面

非正規雇用の女性らは、
神奈川県鎌倉市の資生堂鎌倉工場で口紅などの製造業務に従事しました。資生堂側に都合よく雇用形態を変えられながら働き続け、2009年5月、リーマン・ショックにともなう減産を
す。

和解の内容は▽解雇・雇
い止めを撤回する▽資生堂とアンフィニは解雇・雇
い止めの経過などの紛争にか
んする事情について遺憾の
意を表明する▽両社が連帯
して解決金を支払うーで
す。

理由に24人が解雇・雇い止めされました。

会見で、原告団長の池田和代さんは「いきなり『明

7人は、資生堂とアンフ
イニに対し地位確認や賃金
支払いなどを求めて同年7
月に横浜地裁に提訴し、一
部勝訴。両者が東京高裁に
控訴していました。

曰から来なくていい』と言
われたことを昨日のことの
ように思ひ出します。でも、最後まで負けないと信
じてがんばってきた。声を
あげ、立ち上がって本当に

同時に、資生堂が団体交 よかった」と涙をぬぐいま
渉の申し入れを拒否し続け した。

ることは不当労働行為にあ
たるとして、都労委に救済
の申し立てをおこなってい
たものです。

原告弁護団の藤田温久弁
護士は「大企業の資生堂が
派遣労働者の雇用責任を認
めた、画期的な和解だ」と

評価。同爭議支援共闘會議
代表委員で日本婦人団体連
合会会長の柴田真佐子さん
は「女性労働者自らの問題
としてがんばって支援して
きた成果だ」と喜びました。

資生堂非正規切り争議

勝利和解

い、喜びました。原告団長の池田和代さん(59)は、支援者から受け取った花束を抱き、「いつやめようかと、ずっと思っていたけど、みなさんの顔を見たらいえなかった」と初めて明かしました。

「おめでとう」「長い間応援ありがとう」。資生堂・アンフィニの非正規切り裁判で原告としてたたかった女性たちは25日、東京都労働委員会で全面勝利和解の合意書に調印し、集まった約50人の支援者と涙を流して抱き合

仲間がいたから



記者会見する原告の池田和代さん(前列左から4人目)＝25日、横浜市

いである仕事を奪われるなか、工場がなくなってもたたかい続けたみなさんに敬意を表したい。幸せを取り戻して」と声をかけました。

法廷で事実を突き付け、資生堂と派遣会社アンフィニの法的責任を追及してきた原告弁護団の奮闘、労働組合などの頑張りも、勝利への力となりました。

全労連・全国一般労働組合の鈴木新中央執行委員長は、東京・銀座での宣伝やパレードなど工夫をこらした行動が解決につながったと語り、「今回のたたかいは教訓にしながら、労働者の尊厳をかけたたたかいに勝利していく」と述べました。

原告弁護団の藤田温久(はるひさ)団長は記者会見で、この間の労働裁判で裁判所は、労働法違反を認めながらも企業の社会的責任を回避してきたと指摘し、「今回の合意書で、資生堂は一つの範を示

を勝ち取るため、自分を信じてたたかい続けてきました。うれしい結果に出合えて本当に良かった」と語りました。

当初から支援してきた日本共産党の畑野君枝衆院議員も都労委に駆けつけました。原告一人ひとりと抱き合い、「生活が大変になり、何より、生きが

原告・支援者ら喜びの涙

池田さんは、解雇当時、神奈川県鎌倉市の資生堂鎌倉工場で8年

半、資生堂社員と肩を並べ、口紅製造ラインのラインリーダー(上司)として働いてきま

した。当時、池田さん

の給与のほとんどは息子たちの学費にあてて

いたため、生活は一気に苦しくなりました。

この悔しさをバネに

たたたかった不当解雇

から

の6年8カ月。「80

カ月の困難を乗り越え

た。やってよかった。

ようやく手にした勝利

に笑顔を見せました。

同じくとして6

年間働いていた露木美

香さん(52)。休日

に速達で知らされた突

然の雇い止めは、全労

連・全国一般労働組合

神奈川県地本アンフィニ

分会への加入を通告し

たとたんのことでし

た。

横浜市でおこなわれ

た記者会見では、「非

正規であろうとも権利